

永田町新潮流 平沢勝栄

俺がやらねば



今夏も例年同様、夏祭りや盆踊り会場などを精力的に回って来た。自民党支持者以外の人たちに会い、政府・自民党に対する意見を聞く絶好の機会だからである。

と頂いたが、厳しい批判はほとんど影をひそめていた。逆に、激励や応援の声の方が強かった。

一部マスコミは、自民党や安倍晋三首相を厳しく批判している。もちろん、安

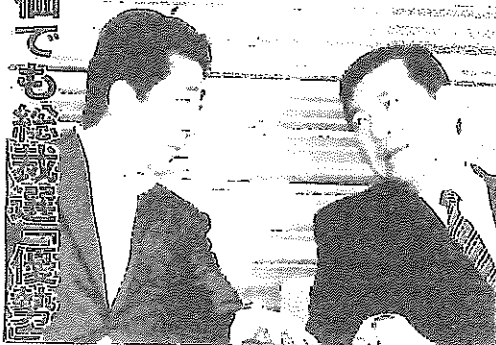
2009年の衆院選で自民党は大敗し、野党に転じた。当時の夏祭り会場などでの反応は、極めて冷たかった。「もう、自民党は応援しない」と何人に言われたことか。

今年も、意見はいろいろ

安倍首相

国民の評価でも総裁選に備え

総裁選で対決する安倍首相と石破氏。勝者が日本の次期首相となる



倍首相には財務省の文書改竄(かいざん)など、いろいろな問題で道義的責任はある。

しかし、まったく問題のない人間などいない。欧米では、政治家は仕事でいい結果を残せば、多少の問題

沖縄知事選も勝利へ総力戦

は許される。相撲でいえば、8勝7敗でも評価されるのだ。日本では、たとえ14勝1敗でも、その1敗が糾弾的になり、辞職に追い込まれることさえある。

結局、不利益を受けるのは国民自身といえよう。

安倍首相は、今まで多くの結果を出してきた。例えば特定秘密保護法、平和安全法制、そして「テロ等準備罪」を新設した改正組織犯罪処罰法などを成立させた。

いずれも主権国家に不可欠な法律だが、一部野党は「戦争」「弾圧」など誤ったイメージを宣伝し、猛反対した。どの法律も、成立まで想定以上のエネルギーを要した。

経済も、12年末に安倍内閣が発足してから大きく好転した。日米関係の緊密化は、いままでもない。一部マスコミがいかに批判しようとする、国民の多くは冷静に判断し、自民党や安倍政権を評価している。

こうしたなか、9月7日に自民党総裁選が告示される(同20日投票)。5年8カ月にあつた安倍首相の在職期間は、長過ぎるの意見もある。しかし、一外交の「継続性」だけを考えても、安倍首相の続投は国益に資するのでないか。

総裁選で、安倍首相は国会議員票と党員票の双方で、石破茂元幹事長より優勢とされる。ただ、連続3選を果たしたとしても、前

途は多難だ。

まず、直後の9月30日に沖縄県知事選の投票が控える。野党側は「翁長雄志知事の遺志を継ぐ」として、米軍普天間飛行場の移設阻止を掲げる。極めて厳しい戦いだ。自民党は総力戦により、何としても勝たねばならない。ほかに、北朝鮮の非核化や拉致問題の解決、憲法改正など課題が山積している。

一騎打ちが想定される総裁選は、双方の応酬が激化し、しこりが残る可能性がある。『ノーサイド』になれば、速やかにこれを解消し、諸課題の解決に向け、政府と党が一体となって取り組んでいく必要がある。(自民党衆院議員)